

鎌内宏光 (名古屋大学)

陸水学は、陸水という場、つまり湖沼や河川、湿原や地下水、温泉水や塩湖、人工的な池沼や水槽など、海岸線から内陸側に存在する水体を扱う学問分野である。従って、対象とする現象や手法には制限がなく、例えば文学作品における陸水の形容表現から過去の環境を復元する試み(谷口, 1995;1997)や、湖底堆積物における年縞による古環境復元(中川, 2024)なども陸水学に含まれるのである。つまり陸水学は潜在的に非常に広い手法や対象をカバーしている。しかし、現代の陸水学で発表される研究成果の多くは、湖沼や河川などの生物や物理や化学に関する、誤解を恐れずにいえばどこか型に嵌った、過去の成果の延長線上に位置しているように思われ、過去の業績とは全く断絶した全く新しい分野開拓の試みは滅多に見ることがないように思われる(私が浅学であるだけなのかもしれない)。

陸水学には約 100 年の歴史があるので、時代ごとに、また(陸水〇〇学のような)いくつかの **branch** における優れた教科書(例えばゴールドマン, 1999; Allan *et al.*, 2021)やレビューを参照することで、ほとんど研究されていない事柄を探し出す目途をつけることができる。そこで、本発表では、僭越ながら陸水学の新しい展開を志し、ここ数年間に、陸水学ではほとんど/全く使われてい

ない、個人的に発見した新しい技術や事物の見方、あるいは着想・着手した試みなどをいくつか紹介し、陸水学の今後の発展について議論したい。

引用文献

ホーン・ゴールドマン(手塚泰彦訳)(1999)陸水学(原著第 2 版).京都大学出版会, ISBN:9784876980857, 638 頁.

中川毅(2024)時を刻む湖——7 万枚の地層に挑んだ科学者たち (岩波現代文庫 社会 351), 岩波書店, ISBN-10:4006033516, 176 頁.

谷口智雅(1995)東京における文学作品中の生物的・視覚的水環境表現からみた水質評価. 陸水学雑誌 56 (1), 19-2.

谷口智雅(1997)文学作品から見た 20 世紀前半の隅田川の水質の変遷. *Geographical Review of Japan. Ser. A, Chirigaku Hyoron* 70 (10), 642-660.

Allan, J. D., Castillo, M. M., Capps, K. A. (2021) *Stream Ecology: Structure and Function of Running Waters*. Springer. ISBN-10:3030612856, 502pp.